

## 2 取組について

### (1) 取組の概要

薬学 6 年制教育の中で重要な点は、医薬品というモノを取り扱う技能のみではなく、患者というヒトを対象とした医療人を養成することである。本取組は薬学教育の初期段階において、倫理観、使命感を身につけさせた上で、患者や他職種の医療スタッフとのコミュニケーションが十分行える薬剤師を養成する目的で、ステップ 1 として、倫理等を幅広く学習しコミュニケーションの基本的技能を習得する知識教育プログラム（教養教育）、ステップ 2 として、患者のつらさを実感し他職種間でのコミュニケーション能力を習得するプログラム（患者の QOL 実感実習）、完成に向けたステップ 3 として倫理観・使命感を基盤として患者とのコミュニケーションの中から解決策を考えるプログラム（患者指向型合宿勉強会）の三つを柱とした取組を行う。これらの取組を通して真の意味で患者の痛みと弱い立場を理解し、患者とのコミュニケーションが十分できる薬剤師の養成を目指す。

### (2) 取組の趣旨・目的

#### ①取組における教育の目標や養成する人物像について

薬剤師には、薬物療法に関する薬学的知識（サイエンス）と調剤等に関する技術（アート）が必要なことは言うまでもない。しかし、何よりも疾病治療に関わる医療人として、その根底に生命・医療に対する倫理観、使命感に加えて患者を思いやる心（ヒューマニティ）を備えていなければならない。さらに、上記の態度に裏打ちされた患者とのコミュニケーション能力をチーム医療の中で発揮することが求められている。本申請は、薬学教育 6 年制の幕開けを機に、倫理観、使命感を有し、コミュニケーション能力を備え「患者の痛みを理解し、患者と共に歩む」薬剤師を養成するための教育プログラムを構築しようとするものである。講義などによる知識教育に留まらず、患者や薬害の被害者の痛みを知り、そのつらさを実体験し、かつ共に涙を流し汗を流すことによって初めて真の倫理観と使命感が心に刻まれることになる、この当たり前ではあるがこれまで実行されていなかった点に着眼し、新しい道を拓くことを目指す。

#### ②設定する教育の目標や養成する人物像のニーズについて

強い倫理観と確固たる患者救済のための使命感の醸成は薬剤師養成教育において極めて重要であるにもかかわらず、これまで対応する薬学教育プログラムは不足、あるいは欠落していた。また患者の苦しみに共感し、またその立場を理解した上で患者とコミュニケーションを持ち行動することは薬剤師にとって根幹をなすものであり、本取組はこれからの薬剤師教育にとって必要不可欠である。またコミュニケーション能力は患者との間のみでなくチーム医療においても極めて重要な要素であり、現在医療の現場で必要とされている。

#### ③取組が求める成果、効果等について

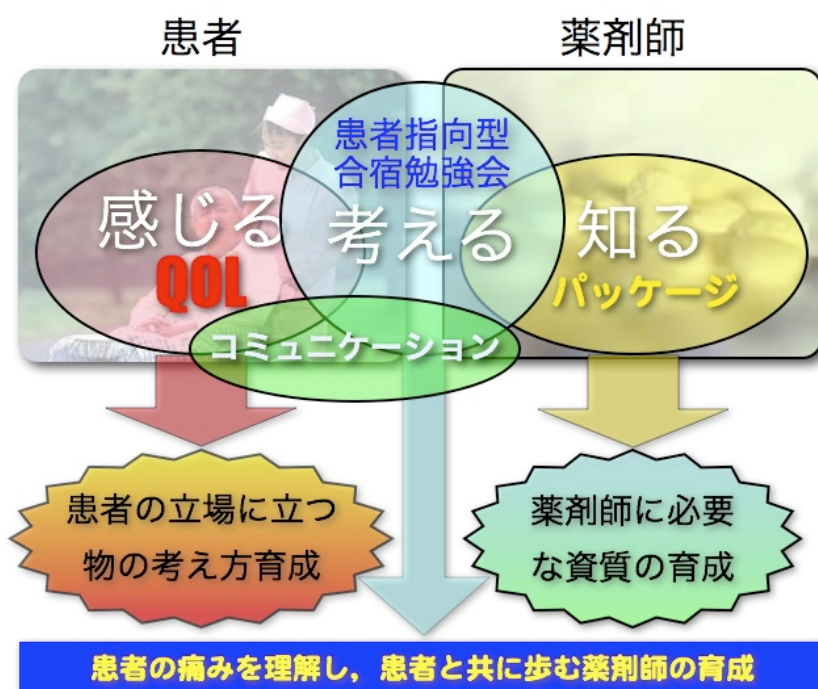
教養教育課程において基礎作りを図り、それを専門課程の初期段階において醸成させる

という重層的な構造を持つ本取組を行う事により，薬剤師の前提となる倫理観やコミュニケーション能力を身につけ，その後専門的知識を積む教育課程に進むことにより，薬剤師という職能に倫理観やコミュニケーション能力を持つ事の重要性が理解できる。さらに，本取組を実施することにより，他の職種の医療人教育への波及効果も十分に期待できると考えている。

### (3) 取組の実施体制等

#### ①取組の趣旨を踏まえた目的を達成するための教育課程，教育方法について

新たなプログラムは以下の三つの柱からなる。すなわち，1) 広島大学では「パッケージ別科目」（様式5（資料）参照）制など独自の教養教育プログラムを展開しているが，それに加えて，医療倫理，生命倫理，コミュニケーションに関する講義をその中に組み込む，2) 多くの患者は生活の質（QOL）が著しく低下しているが，その一端を学生が実感するプログラムを構築し，さらにチーム医療教育実践のために，模擬病棟（平成17年度設置）における医学部，歯学部学生との合同コミュニケーション教育を行いコミュニケーション能力の向上を目指す，3) 薬害を受けた患者やその家族と合宿形式で寝食を共にし，薬学生としての倫理観と使命感を基盤としたコミュニケーション能力の醸成と問題解決能力を育むプログラムを，学生主導で教員と協働し，立案・実施する。（7頁，参考③を参照）



#### ステップ1：医療人としての倫理観・使命感・コミュニケーション能力を涵養する教養教育（教養教育）

広島大学は従来から教養課程教育については全学を挙げて取組み，独自の教育プログラムである「パッケージ別科目」を開講している。「パッケージ別科目」は大きなテーマのもとにそのテーマと関連を有するいくつもの講義科目で構成されており，学生はその大きなテーマを選択する事で様々な視角から講義の主題に対するアプローチを学ぶ事が出来る。そこで本取組は，倫理学，心理学，生命科学など幅広い専門領域横断型のパッケージ別科目として「生命の理解」を開講する（次頁図）。本プログラムは人間・価値の視角には「応用倫理としての生命倫理」と「生命と環境の倫理」を，社会・世界の視角には「現代社会と人権」「医療法と倫理」を，自然の視角には「生命の科学」と「心の適応」を各々の主テーマとして，生命倫理を中心に生命のあり方を広い視点から捉え，医療人（医師，

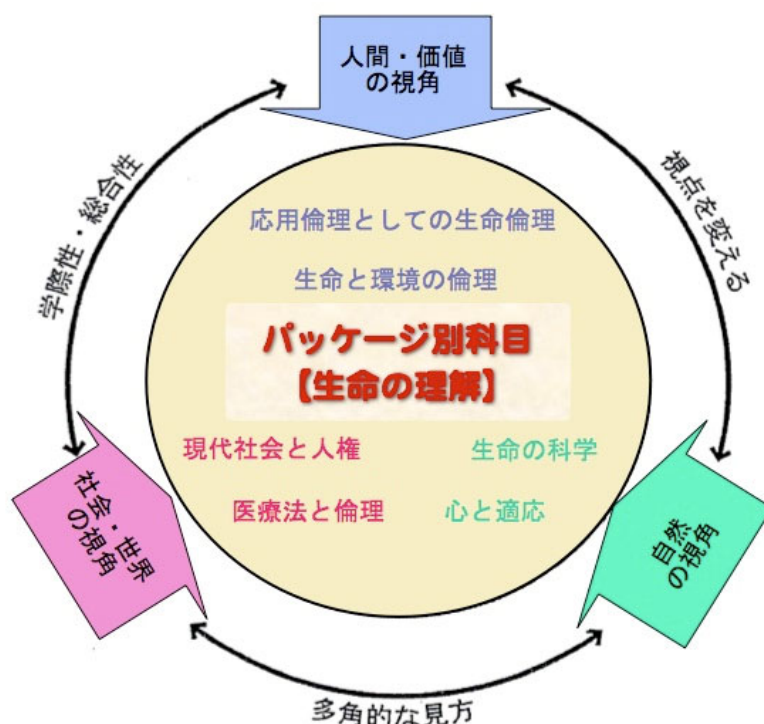
歯科医師，看護師，薬剤師などを含めた医療スタッフの総称）としての生命の尊さを総合的に理解できるように計画している（パッケージ別科目）。本プログラムは薬学科の学生を対象とするのみではなく，医療系学部や教育系学部を中心に，幅広く開講する事で様々な背景を持った学生とともに学べるよう計画している。そのことにより，幅広い学生が薬学そして薬剤師のあるべき姿を理解してくれるものと期待している。さらに，患者とのコミュニケーション能力を醸成するために，まず基本となるコミュニケーション技法を習得する講義を開講（非常勤講師を含む）する（コミュニケーション論）。尚，本取り組みの準備として，平成18年度より医療心理に特化した科目として「医療従事者のための心理学」（様式5（資料）参照）を医学系教員，心理系教員，そして薬学系教員で企画・開講し，さらにその教科書も作成している。これを核に，さらにパッケージ別科目にまで発展させることにより，真の意味での医療人としての倫理観・使命感を涵養する教養教育の完成を目指す。

**ステップ2：医療人として患者の立場を実感し理解できる能力を育成する教育（患者の QOL 実感学習）**

本取組は，患者等，QOL（Quality of life：生活の質）が低下している状態を実感することで，患者や老人，妊婦等のつらさを肌で感じる事を出発点とする。医療現場での臨場感が必要であるので，大学病院を中心とし，模擬病棟での実施も計画している。具体的には眼鏡，おもり等を装着する事によって老人における QOL の低下を実感したり，車いすを使用することで歩行困難な患者の疑似体験も行う。その他，妊婦のつらさや糖尿病患者や腎臓病患者が行っている食事制限を体験する事も含まれている。このように QOL の低下を疑似体験した後に学生同士で話し合い，患者特有のつらさの実感を基に薬剤師としてどのような態度で接すれば良いか最良の方法を提案する（実感プログラム）。

もう一つの患者の QOL 実感学習として患者に直接取材を行い，ビデオ撮影することによって患者の苦しさやつらさを実感する取組がある（取材プログラム）。学生が直接患者にそのつらさや苦しさを共感を持って取材し，その様子をビデオ撮影して，他の学生たちの前で発表し討論を行う。この取組で患者とのコミュニケーションも身につけることが可能となる。

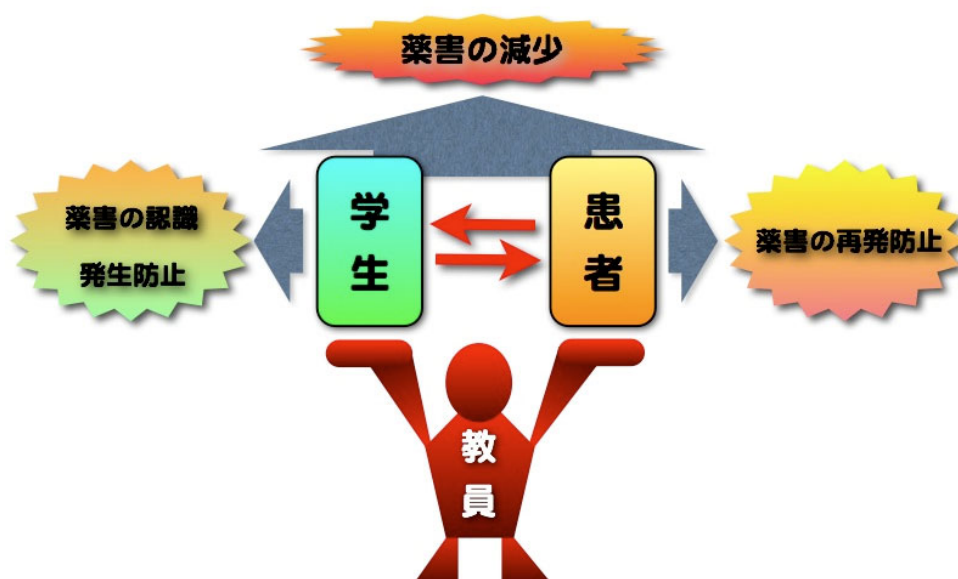
さらに，コミュニケーション能力育成のためのトレーニングとして，模擬病棟において医学部，歯学部と協同してコミュニケーション能力の育成を目指す取組を実施する（チーム医療コミュニケーション能力育成プログラム）。



ステップ2は、これら実感，取材，チーム医療コミュニケーション能力育成の3つのプログラムで構成される。

### ステップ3：医療人として患者中心に考え問題点を解決する教育（患者志向型合宿勉強会）

本取組は学生による企画で、全国薬害被害者団体連絡協議会の協力を得て「薬害」患者と学生とが薬害について討論し、その苦しみを共感的に理解し、救済に向けた方策・態度を醸成するものである。さらに薬害の発生防止に向けてどう行動したら良いかに関して学生に提案させることも目的としている。この取組を通して学生は倫理観に裏付けられた患者とのコミュニケーションを実践する機会が可能となる。さらに、この取組を通し、薬害などの医薬品による事故や被害を二度と起こさない決意を学生自身が持つことにより、4年次以降の専門教育課程での教育効果は著しく向上し、医薬品による被害の発生防止に繋がると考えられる。



本取組は、まず「薬害」をテーマに実施するが、その後、在宅治療，ターミナルケア

（終末期医療），インフォームドコンセントなど，医療倫理やコミュニケーションに焦点を当てた数々のテーマに取り組む。それにより新しい6年制教育の一つのスタンダード確立を目指す。

## ②取組の実現に向けた実施体制について

### ステップ1：医療人としての倫理観・使命感コミュニケーション能力を涵養する教養教育

本取組を実践するためには質の良い教材を準備する必要がある。現在，大学院課程で実施している生命・医療倫理特論における教材を参考に作成する。またコミュニケーションに関しては医療関係のコミュニケーション能力開発を専門にしている非常勤講師を招き，講義を行う予定にしている。

広島大学の特徴として、教養的教育を行うキャンパスと薬学部が距離的にかなり離れている点が挙げられる。従って本取組では講義と学生指導を円滑に実施するため遠隔地講義の設備を充実させる。

### ステップ2：医療人として患者の立場を実感し理解できる能力を育成する教育

大学病院内に設置してある模擬病棟で装具を付ける実習やチーム医療コミュニケーション能力育成実習を行うことで臨場感が得られる。また患者に対する取材に関しては、NHK

広島支局の協力体制のもと取材における留意点，撮影時の問題点等の指導を行う予定である。さらに，この取材プログラムによって作成した番組をアーカイブ化することにより，既卒の薬剤師のための生涯教育の教材とすることも予定している。

### **ステップ3：医療人として患者中心に考え問題点を解決する教育**

教員は円滑に運営できるようにサポート側に回る。本取組は大学キャンパスで行うのではなく，宿泊設備の整ったセミナーハウス等で実施する。この際，当然のことであるが患者に対する個人情報保護，人権保護への配慮を行う。

なお上記の取組を円滑に行うために 6年制薬学教育開発センターを設置し，本取組全体に渉る立案，運営，評価を行う。

### **③取組における大学等としての独創性または新規性について**

特に患者に対する取材，ビデオ撮影を行う取組は患者の実感を擬似的に体験する試みとして薬学教育では初めてのものと考えている。また薬害患者との話し合いも授業の一環として，学生の企画を中心に行う点に独創性がある。

#### **(4) 取組の有効性**

##### **①取組における教育課程，教育方法等の創意工夫について**

パッケージ別科目は様々な視点から理解を深める教養教育として既に定評あるところである。その手法を「生命・医療倫理」に適用するところが本取組であり，学生にとって倫理学の持つ多様な観点の理解を深めるのに極めて有効である。またコミュニケーションに関する講義は倫理観の重要性を理解した上で学習するように配慮することで，単なるテクニックの習得で終わらないように工夫している。

取材やビデオ撮影を通して患者の苦しみを実感する取組では，学生の現場での誠意，患者の気持ちを引き出すための工夫が極めて重要であり，その結果が他の学生と共有できる点が有効であると考えている。

##### **②取組における実施体制等の創意工夫について**

「薬害」患者と一緒に討論する取組は患者が抱えているその苦しみを学生，教員で共感し，対応策を検討するためのものであり，これを通して学生は直接患者に接し，意見を交換することが倫理観の醸成につながる，さらに，この企画そのものを学生主導で行う事により準備段階から「薬害」と向き合う事が可能となり，効果は増す事が十分期待できる。

患者のQOL 実感学習は大学病院内に設置してある模擬病棟において，学生に老人，妊婦など実感させる装具を身に付けさせ，日常生活における不便さを実感させる。また車いすを使って移動することの困難さを実感させる。さらに，糖尿病食，腎臓病食を実際に食べさせ患者のQOL について実感させる。

このように患者あるいは老人，妊婦のような状況を設定し，それを実感する事でその立場を理解し，どのように対応するかを学生同士で討論させる。従来，講義形式では望めなかった患者のQOL 低下を実感することで薬剤師として，そのつらさをどのように克服する

のが良いかを考えさせる取組である。

取材、ビデオ撮影は NHK 広島支局との連携において実施する予定であり、制作過程での技術的サポートは問題ないと考えている。

### ③取組により期待できる成果等の教育改革への有効性について

従来の薬学教育では実現が困難であった倫理観、使命感の醸成という態度教育が本取組によって可能となれば、薬剤師養成において画期的な改革となる事は言うまでもない。特に、専門教育を行う前の早期に行う事で専門教育に対するモチベーションの高揚も期待できる。また本取組は他の医療人養成教育にも十分適応可能であり、波及効果が期待できる。さらに、この取組を通し、4年次以降の専門教育課程での教育効果は著しく向上し、医薬品による被害の発生防止に繋がると期待でき、その社会的意義は極めて高いと考えられる。

#### (5) 取組の評価体制等

##### ステップ1：医療人としての倫理観・使命感を涵養する教養教育

パッケージ別科目については、広島大学教養的教育委員会において達成度評価を受ける事が決められている。また広島大学で行われているすべての学部講義科目は講義終了時に学生による評価を受ける事になっているので、取組の評価体制は万全である。本パッケージ科目やコミュニケーション論に関しても同様に評価を受け、今後の改善のためにその結果を活用する事が可能である。

##### ステップ2：医療人として患者の立場を実感し理解できる能力を育成する教育

事後に学生に対してアンケートを実施し、それを基に教育効果を評価する体制を計画している。さらに、チーム医療コミュニケーション能力育成プログラムの評価については、他学部の学生の協力を得て、薬剤師の立場に対する理解度について評価をする。

##### ステップ3：医療人として患者中心に考え問題点を解決する教育

事後に全国薬害被害者団体連絡協議会の参加者に取組の評価を依頼し、その妥当性や教育効果について検討する体制を計画している。

本取組全体について6年制薬学教育開発センター内に評価部門を設置し、個々の取組に対する事後評価を総合し、次年度に向けての改善課題を見出す体制を計画している。

(参考)

### ①取組に関連する今日までの教育実績

パッケージ科目については、広島大学教養教育委員会が中心となって行っており、既に10年程度の実績がある。

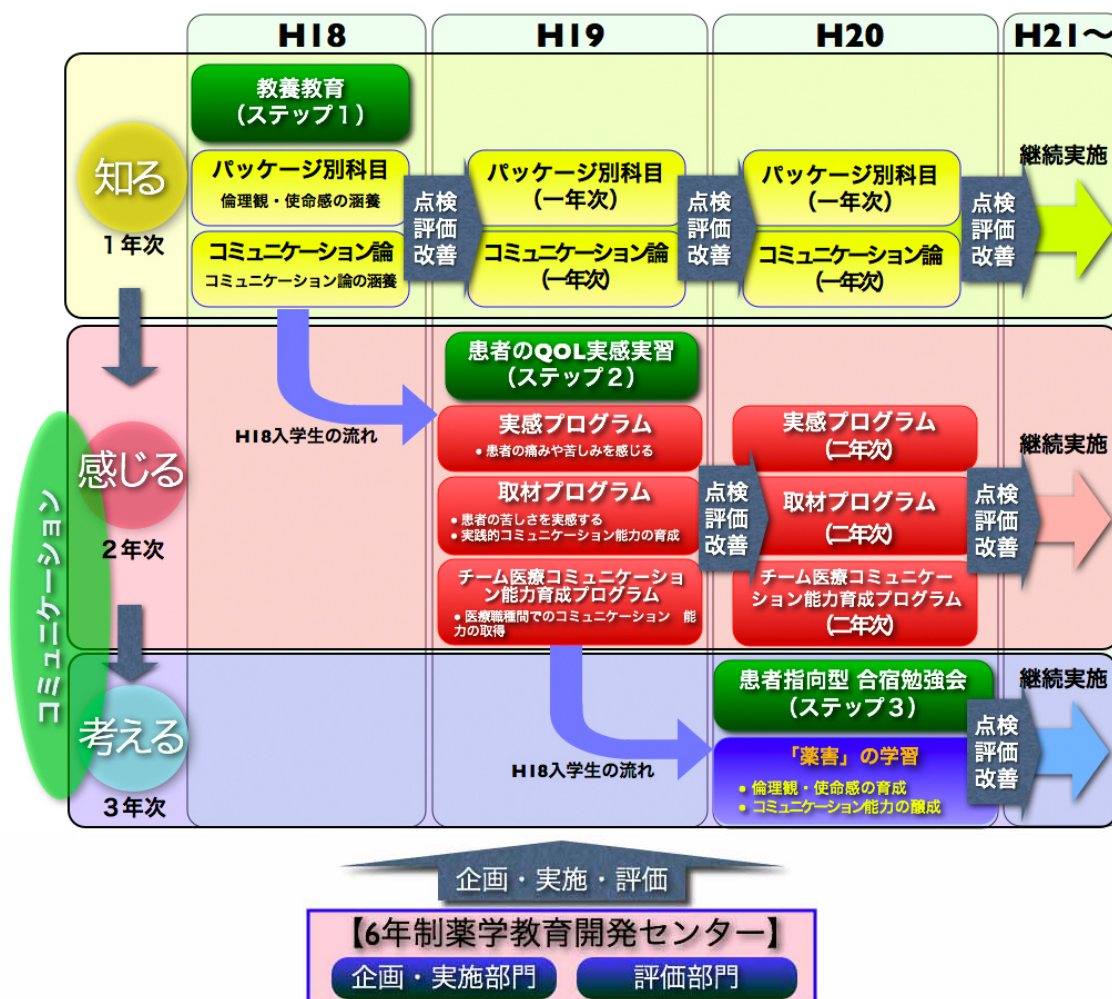
また、患者のQOL実感学習については、既に2年次生に対して車いすによる実感実習を行っている。さらに1年次生に対して病院、介護施設等で患者と直接面会するタイプの早期体験学習も実施しており、既に体験学習に関する教育実績がある。

担当する教員のほとんどは既に医学部主催のFD（ファカルティ・ディベロップメント）に参加しており、FD（合宿勉強会を含む）の意義等に関する理解やその運営に関する方法についての準備は十分である。

### ②実施体制等の今日までの経緯

2005年に第38回日本薬剤師学術大会が広島県にて開催され、本学教員3名は大会運営委員会委員として大会の準備・運営に貢献した。大会の中で、「薬害に学ぶ」というテーマで全国薬害被害者団体連絡協議会と連携してシンポジウムを設け、多くの参加者の感銘を得たという実績を有する。

### ③実施体制の全体像を示した図



### 3 取組の実施計画等について

#### 平成 18 年度の実施計画

##### ステップ 1：医療人としての倫理観・使命感を涵養する教養教育

- ・ 薬学科 1 年次生（H18 年入学）全員（39 名）に対してパッケージ別科目を履修させるための教材作成
- ・ パッケージ別科目「生命の理解」の開講
- ・ コミュニケーション論の開講
- ・ 上記の講義のうち一部を遠隔地からの双方向講義で行う。また、同システムを利用し、学生との緊密なコミュニケーションを維持する体制を整える。
- ・ 6 年制薬学教育開発センターの設置

#### 平成 19 年度の実施計画

##### ステップ 1：医療人としての倫理観・使命感を涵養する教養教育

- ・ 薬学科 1 年次生（H19 年入学）全員に対して上記パッケージ別科目とコミュニケーション論を開講

##### ステップ 2：医療人として患者の立場を実感し理解できる能力を育成する教育

- ・ 薬学科 2 年次生（H18 年入学）全員（39 名）を対象に加齢を実感する装具等を付ける等して QOL 実感学習を実施
- ・ 薬学科 2 年次生（H18 年入学）を 5 グループに分け、それぞれ別の患者に取材を行い、ビデオクリップを作成、その後教室にてお互いに発表し、討論を行う。
- ・ 模擬病棟において、医学部、歯学部と協同しチーム医療コミュニケーション能力育成実習を実施する。

#### 平成 20 年度の実施計画

##### ステップ 1：医療人としての倫理観・使命感を涵養する教養教育

- ・ 薬学科 1 年次生（H20 年入学）全員に対して上記パッケージ別科目とコミュニケーション論を開講

##### ステップ 2：医療人として患者の立場を実感し理解できる能力を育成する教育

- ・ 薬学科 2 年次生（H19 年入学）全員を対象に上記の QOL 実感学習を実施

##### ステップ 3：医療人として患者中心に考え問題点を解決する教育

- ・ 薬学科 3 年次生（H18 年入学）全員（39 名）によって企画、運営を行い、薬害患者 5 名を交えて、患者の訴えを聞き、救済方法を模索し、薬害防止策を提案する。宿泊施設を用いて 1 泊 2 日で時間をかけて取り組む。

#### 平成 21 年度以降の実施計画

- ・ 平成 20 年度で実行した取組を継続して実施する。
- ・ 本取組は 1～3 年次の教養・専門基礎教育において行われるが、この取組は 4 年次以降の高学年における専門教育、特に臨床実習の基盤を成すものであり、本取り組み無くして 6 年制薬学教育は大改革の目的を果たせないと考えている。



4 データ, 資料等

4. パッケージ別科目

1) パッケージ別科目の目的と構成

① パッケージ別科目の目的

パッケージ別科目の目的は、専門以外の分野に接し(脱専門)、幅広い視野(学際・総合)を身につけることです。人類や社会が直面している問題の理解と、それを解決する道筋を考えるためには、学際的な発想や、多角的なものの方見方とても大切です。

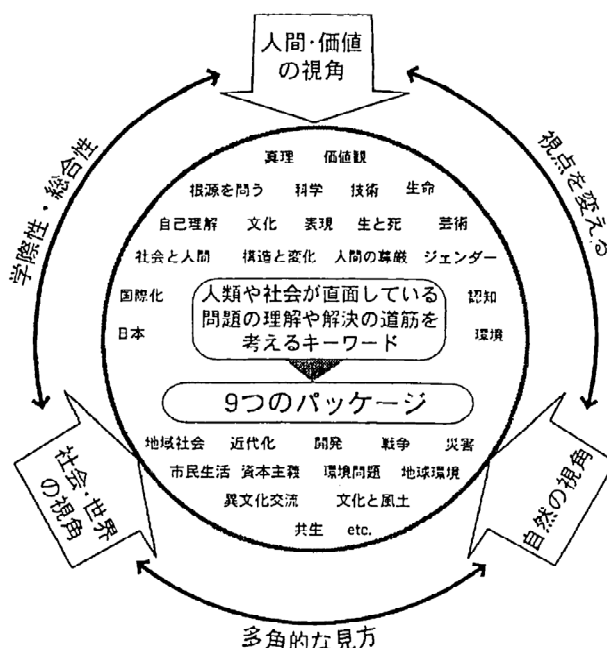
② パッケージ別科目の構成

パッケージ別科目は9つのパッケージからなっています。その中から学生はひとつのパッケージを選択します。各パッケージは“共通の目標”のもとに束ねられた複数の授業科目群より構成されています。学生はパッケージ内の授業科目を選択することによって、パッケージ毎に定められた“共通の目標”に対する多角的な接近の仕方を学びます。

パッケージとしては、「知の根源を問う」「人間性の理解」「人間と文化」「社会のしくみと人間」「市民生活と社会」「異文化の交流と共生」「現代文明と国際社会」「科学技術と人間」「人間と自然の共生」の9つが用意されています。それぞれの内容については後述(p. 教養31～p. 教養39)されます。

パッケージ内の授業科目は、「人間・価値の視点」「社会・世界の視点」「自然の視点」という3つの視点に分類されています。「人間・価値の視点」では、ある現象や問題を理解するに際して、人間とは何か、価値とはどのように与えられるものなのか等を意識したアプローチが試みられ、「社会・世界の視点」では、社会のしくみや世界の成り立ち等を考える姿勢が、また、「自然の視点」では自然のしくみや人と自然の関わり等を考えようとする姿勢が重視されます。

これらの関係は次のように図示できます。



(出典：平成18年度学生便覧—教養29—)

科目区分	基盤科目		
授業科目名	医療従事者のための心理学[1医理,1医作,1薬薬]		
授業科目名 (フリガナ)	イリョウジュウジシャノタメノシンリガク		
英文授業科目名	Psychology for Medical Care Workers		
担当教員名	坂田 桐子		
開講部局	教養教育		
開講キャンパス	東広島		
授業の形式	講義	単位	2 週時間 2
開設期(開講期)	1年次生 後期(2セメスター)	講義室	総K110
曜日時限	木 1時限, 2時限		
対象学生	医学部、薬学部1年次生		
教職専門科目		教科専門科目	
授業の概要	患者の行動や心理を理解し、円滑な医療を進めていくために必要な心理学・行動科学の基礎知識や基本的な考え方を学ぶ。		
授業のキーワード			
関連するプログラム	1医理,1医作,1薬薬		
学習の成果			
授業計画	第1回 オリエンテーション、医療従事者のための心理学とは何か 第2回 行動の成り立ち(1) 行動と動機づけ 第3回 行動の成り立ち(2) 情動と感情 第4回 行動の成り立ち(3) 学習と条件づけ 第5回 行動の成り立ち(4) 記憶と認知 第6回 パーソナリティ(1) パーソナリティ 第7回 パーソナリティ(2) パーソナリティの形成 第8回 パーソナリティ(3) ジェンダー 第9回 ストレスと適応(1) フラストレーション、ストレス 第10回 ストレスと適応(2) ストレスへの対処 第11回 ストレスと適応(3) ソーシャル・サポート 第12回 対人関係(1) 対人認知の仕組み、対人認知の歪み 第13回 対人関係(2) コミュニケーション、社会的影響 第14回 対人関係(3) 説得と態度変容 第15回 まとめ		
予習・復習への アドバイス	以下のキーワードについて調べ、まとめてみよう。 第1回 行動理解の枠組み、行動のモデル、行動の多面的理解 第2回 生得的動機、ホメオスタシス性動機、生存動機、性動機、学習性動機、 動機づけの階層、学習性無力 第3回 ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動二要因説、二経路説、 自己刺激行動 第4回 古典的条件づけ、学習の獲得と消去、般化と分化、オペラント条件づけ、 強化スケジュール、弁別学習、3項随伴性 第5回 感覚記憶、ワーキングメモリ、長期記憶、忘却、注意、錯視、ボトムアップ 処理、トップダウン処理、アルゴリズム、ヒューリスティック 第6回 パーソナリティ、個性、性格、気質、知能、類型と特性、自己概念、 質問紙法、投影法、作業検査法、知能検査 第7回 遺伝と環境、臨界期、愛着行動、養育態度 第8回 セックスとジェンダー、男らしさと女らしさ、ジェンダー・スキーマ、 ジェンダー・アイデンティティ、ジェンダー・ステレオタイプ 第9回 フラストレーション、コンフリクト、特性不安と状態不安、ストレス、 汎適応症候群、ストレスの認知評価理論 第10回 対処方略、ストレス反応、感情鈍磨と情動麻痺、アレキシサイミア、 心身症、うつ病 第11回 ソーシャル・サポート、ストレス緩和効果、道具的・社会情緒的サポート 第12回 対人認知、印象形成、中心特性と周辺特性、カテゴリー依存型処理とビー スミール処理、印象形成の連続体モデル、ステレオタイプ、結果依存性 第13回 コミュニケーション形態、非言語的コミュニケーション、コミュニケー ション・スキル、社会的勢力、権威と服従、集団規範、同調 第14回 態度、態度変容、信憑性、説得技法 第15回		
授業内容を理解する ために読むべき テキスト等	「医療従事者のための心理学」(培風館)を使用する。		
既修得要件等授業を 受ける上での注意点	諸テーマの揭示順序ならびに具体的な組み立て方については担当教員によって異なる場合 もあるので、最初のオリエンテーションに必ず出席し、授業内容と授業計画を確認するこ と。		
メッセージ			

(出典：平成18年度教養教育開設授業科目講義概要，p180)